

特集 自主防災組織

守る。

災害から生命や財産、 わがまちを守る力

自主防災組織とは

宮城県沖を震源とするマグニチュード7・5程度の地震が、近い将来高い確率で発生するといわれています。災害から家族や自らの生命、財産を守るためには、普段から十分な対策をしておかなければなりません。

大規模の地震が発生した場合、道路の寸断や水道管の破裂、家屋の倒壊など、短時間で広範囲にわたる被害の発生が予想されています。災害から身を守り被害の拡大を防ぐには、個人や家族の力だけでは危険や困難を伴う場合もあり、限界があります。

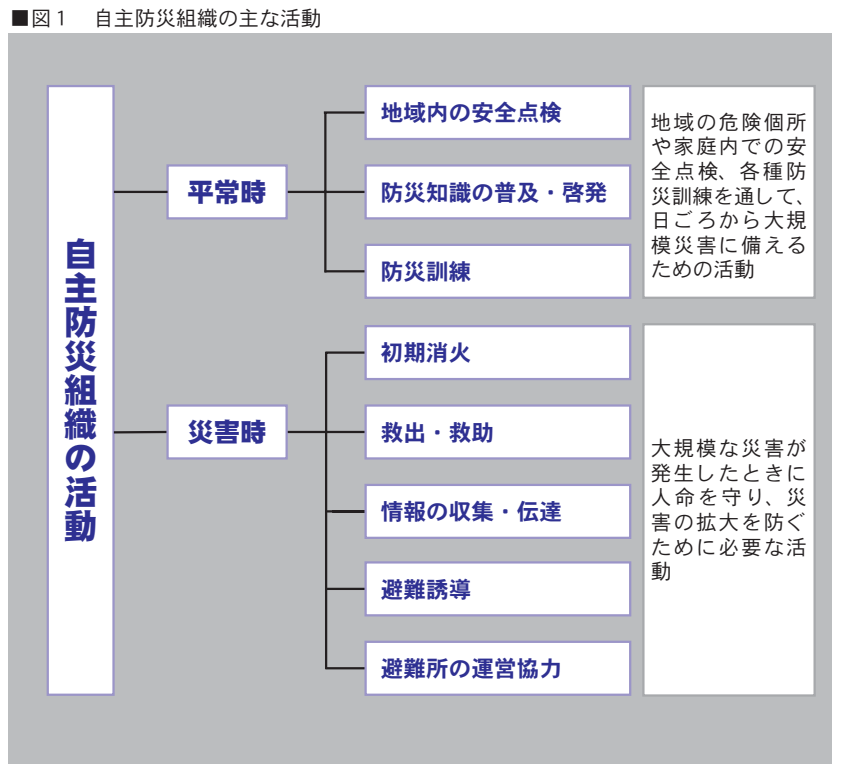
いざというときに備えて、地域の人たちが互いに協力しながら、防災活動を組織的に取り組むことが重要です。災害発生時はもちろん、日ごろから地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組む組織、これが「自主防災組織」です。

自主防災組織の役割

災害が発生した場合、市や防災関係機関は総力をあげて救助・救援活動を行います。大規模地震の発生初期は、対応能力に限界があり、十分な活動が行えないケースも考えられます。

阪神・淡路大震災では、倒壊家屋などから救出された人の約6割は、近所の皆さんの行動によるものだったことが報告されています。防災関係機関が活動を行うまでの間、被害の拡大を防ぐため、地域の皆さんが力を合わせることも重要です。初期消火や避難誘導などを地域の皆さんが行うことで、被害を最小限に抑えることができるのです。

自主防災組織の主な活動



中田町加賀野二区の自主防災訓練には地域住民70人が参加。子どもからお年寄りまで集まり、初期消火訓練などを実施しました

■図3 自主防災組織の結成状況（平成17年9月末現在）

町域	行政区数	結成数	結成率(%)
迫町	54	10	18.5
登米町	38	2	5.3
東和町	25	12	48.0
中田町	54	2	3.7
豊里町	20	2	10.0
米山町	36	1	2.8
石越町	21	10	47.6
南方町	28	28	100.0
津山町	25	4	16.0
合計	301	71	23.6



応急救護訓練を学ぶ南方町大袋区の皆さん

自主防災組織の形態

組織は、基本的に会長・副会長・各班のリーダーを中心とした体制で活動します【図2】。訓練を通して必要な見直しをしながら、地域にあった適切な組織体制にしていけることが大切です。

市内の自主防災組織

市内には、すでに71組織が結成され、各種訓練や講習会

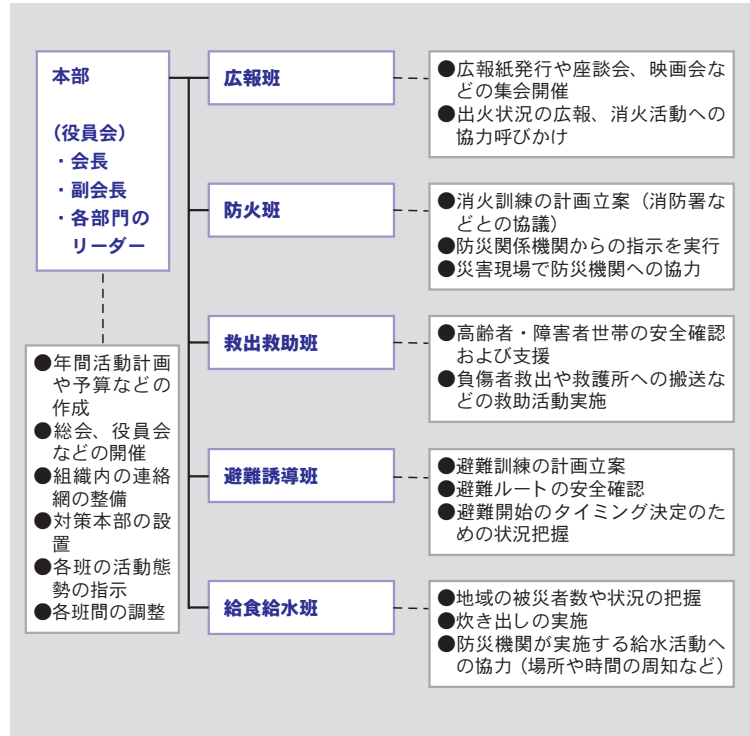
などを積極的に開催しています【図3】。市では、自主防災組織の結成を奨励しています。

結成することとなった地域には、職員を派遣し、組織体制づくりや防災訓練などの指導を行っています。お気軽にご相談ください。

問い合わせ

総務部防災課
 ☎ 0220 (22) 2130
 消防本部予防課・消防署
 ☎ 0220 (22) 0119

■図2 自主防災組織の組織モデルと活動内容



インタビュー

「自分たちで守る」が自主防災の基本理念



登米市消防本部 佐々木勝寿 消防長

地震などの災害で広範囲に被害が出たとき、被害を最小限に抑えるためには、市民一人一人が「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い連帯意識を持つことが大切になります。

各地域で防災活動に取り組む、災害に負けない強いまちづくりを進めていきたいと思います。

行政区住民全員で災害の備え万全に



迫町鉄砲丁区 渡邊 浩 区長

鉄砲丁行政区では、10年前に組織を結成し、毎年1回防災訓練を実施しています。

当地区はアパートが多く、住民の人員を把握するのが大変でしたが、昨年の訓練時に全世帯員を把握し、611人分の組織図を作成しました。住民全員で災害への備えを万全にしています。